

「精誠を捧げる」

皆さん、こんにちは。

今日は、「精誠を捧げる」という題目で、説教を致します。

はじめに、聖書を拝読します。

「先生、律法の中で、どのいましめがいちばん大切なのですか」。

イエスは言われた、『心をつくし、精神をつくし、思いをつくして、主なるあなたの神を愛せよ』。

これがいちばん大切な、第一のいましめである。

第二もこれと同様である、『自分を愛するようにあなたの隣り人を愛せよ』。

これらの二つのいましめに、律法全体と預言者とが、かかっている」。

（『新約聖書』マタイによる福音書 22 章 36～40 節）

精誠を捧げることの重要性

真の父母様は「精誠」の世界をととても大切にされます。人類の真の父母として、神様のために、人類のために、いつも精誠を尽くして来られました。

私たちが真の父母様を慕い、神様を中心とする生活をしていこうとする時に、精誠を捧げることはとても重要なことになります。今日は精誠について学んでみたいと思います。

真のお父様は、精誠について、次のように語っていらっしゃいます。

精誠とは何でしょうか。……精誠とは特別なことではありません。同じことを千回、万回、心を入れて反復しながら、自分が喜びと同時に、世界までも喜びように影響を与えようとすることです。

精誠というものは、千回、万回繰り返すことです。専門的な技術者になるためには、その分野で千回、万回、億万回、何度も繰り返さなければなりません。繰り返すところに最高の権威が生じるのです。愛する世界で専門家になり、愛の最高の技術者にならなければなりません。

（『至誠感天・家和万事成』17～18 ページ）

精誠とは愛すること

精誠とは何か、お父様が教えてくださったことがあります。

ある時、お父様があるお弟子さんに「精誠とは何だと思うか？」と質問されたそうです。そのお弟子さんはとても信仰深く、信仰生活を基準高く行っていた人だったので、「精誠とは、訓読や祈祷などの神様を中心とする生活をお捧げすることです」とお答えしたそうです。

すると、お父様は「違う」と答えられたといひます。「精誠とは、愛することだよ」と教えてくださったそうです。

たとえば、あるご婦人が神社にお参りをしていたとします。そのご婦人は毎日神社でお参りをしています。なぜ毎日神社に来てお参りをするのでしょうか。

もしかしたら、神社が好きなご婦人で、毎日散歩の度に神社に寄ってお参りをしているのかもしれない。しかしもしかしたら、どうしても叶えたい願いがあつて、「お百度参り」をしているのかもしれない。もしかしたら、子供が重い病気で、その病気を治して欲しいと、子供のために「お百度参り」しているのかもしれない。

この前者と後者との違いは何でしょうか？それは愛です。

後者のように、子供への愛のために行ひ続ける行動は、まさに精誠だと言へます。

ですから、お父様は次のようなみ言を語つていらつしゃいます。

自分を中心としたものになれば、精誠は成し遂げられません。精誠は、自分を中心として尽くすべきものではなく、相対、すなわち、家庭なら家庭、社会なら社会、国家なら国家など、より大きな相対のために尽くしてこそ、「精誠」という名詞が成立するのです。自分を中心として精誠を尽くしたものは、自分1代においては残り得るかもしれませんが、それは、自分1代と共に流れていつてしまうのです。

精誠の基台は、相対のためのものだけが残ることができます。その相対の大きさによって、精誠を尽くした実績や、結べる因縁の大きさが決定されます。ですから、皆さんは自分を中心とするところではなく、必ず相対のために生きるところにおいて精誠の要件が成立し、「精誠」という名詞が成立するということを、肝に銘じなければなりません。

（『至誠感天・家和万事成』20 ページ、1967、1、29）

精誠を捧げる人は強い

精誠を捧げることを、愛することと言ひ換えてみると、様々なことが見えてくるようになると思ひます。

神様のために精誠を捧げることは、神様を愛することです。

友だちや学校のために精誠を捧げることは、友だちや学校を愛することです。

スポーツで精誠を捧げることは、そのスポーツを愛することです。

勉強で精誠を捧げることは、勉強を愛することです。

自分の生活で精誠を捧げることは、日々の時間を愛し貴重に思ひながら過ごすということでしょう。

精誠を捧げたものには、愛が込められているのです。

ですから、精誠が込められたものは自分勝手に扱つてはならず、もし自分勝手に扱ったならば讒訴を受けてしまう、恐ろしいものだといひのです。

お父様は次のように語つていらつしゃいます。

先生は、精誠を尽くした人を最も恐れるのです。威張って天下に号令する、そのような人は何でもありません。命令すれば天地が「はい」と従う、そのような精誠を尽くした人を最も恐れるというのです。精誠のひもで神様をしっかり結びつけば、神様も完全に拘束されます。精誠のひもを断ち切るという天法はありません。ですから、神様の本体や本質は、精誠のひもで私たち統一教会と連結しているのです。

（『至誠感天・家和万事成』35 ページ、第一章 至誠感天 第四節 精誠に対する姿勢）

精誠を捧げる人となろう

このように、精誠を捧げる世界を持つ人は、強いのです。

一つのことを諦めることなく、愛し続けることのできる強さがあり、自信を持つようになります。

真の父母様のように、精誠を立てる世界を大切にし、精誠を捧げられる人になっていきましょう。

それでは、精誠を捧げる時、つまり愛する時、その対象の第一番目であるべき存在は何でしょうか？

自分の好きな趣味を最初に愛しますか？それとも自分が好きな友だちを最初に愛しますか？

大切な人、大切な物事を愛し、精誠を捧げることは大切です。しかし、その対象には順番があるべきです。最初に精誠を捧げ愛するべき対象とは、他でもなく神様です。

真の父母様の人生を目の当たりにした時、それは精誠を捧げ続けられた人生だったと、誰もが感じるでしょう。それはなぜかというと、誰よりも神様を第一に愛した方だからです。お父様は次のように教えていらっしゃいます。

神様のみ前に精誠を捧げるとしても、手付かずの物をもって精誠を捧げなければなりません。そのようにしてこそ神様と関係を結べるのであって、使い残した物で精誠を捧げてはいけません。十分の一献金は、一番精誠を込めた手付かずの物でなければなりません。それが祭物です。祭物を捧げるときは、手付かずの物を捧げなければなりません。もし、息子を祭物として捧げるとすれば、一番良い息子を捧げなければならないのです。祭物は「私」の代身だからです。

（天一国経典『天聖經』1193 ページ、第十一篇 第二章 礼拝儀式 第二節 献金生活4）

私たちは、どんな時でも神様がおられることを忘れず、神様を第一の存在として意識し愛する生活をしていきましょう。

その時に、自分が神様を愛する以上に、神様を愛するより先に、既に神様が私を愛してくださっていることを知り、そのことが分かる人になっていただきたいと思います。

神様ご自身が、誰よりも先に私たちのために精誠を捧げてくださっています。

最後に、み言を紹介して説教を終わります。

神様は、人間より、もっと精誠を尽くしていらっしゃるのです。神様は、個人のために精誠を尽くし、息子、娘のために精誠を尽くし、そしてその息子、娘たちが求めていく家庭のために精誠を尽くし、その家庭が求めていく氏族のために精誠を尽くしていらっしゃいます。

（『至誠感天・家和万事成』24 ページ、1971. 3. 14）

今日は、『精誠を捧げる』という題目で説教をしました。

以上で説教を終わります。ありがとうございました。